



7月の園だより

令和7年6月30日
杉並区立西荻北子供園
園長 須田 なぎさ

子どもたちの大切な毎日をつくるために

主任教諭 杉本 有優美

梅雨入りしたとは感じられないくらい日差しが強く、気温の高い日が続いています。プール・水遊びが毎日のように行われ、子どもたちが楽しんでいる声が園庭に響いています。

毎朝テラスで子どもたちが登園してくるのを待っていると、笑顔で走って担任のところに向かう姿や、少しお疲れ気味の様子で歩いてくる姿、門で保護者の方と離れたくなく涙が出てしまう姿など、様々な様子で登園してきています。ご自宅からの距離はそれぞれ違うと思いますが、子どもを時間通りに登園できるよう身支度をして家を出ることは簡単なことではなく、様々な準備が必要です。朝起きる時から食事や排せつなど、スムーズにいかない日もあると思います。親子で気持ち良く出発できるように小さな工夫をたくさん重ねていらっしゃるのではないでしょうか。保護者の皆様、毎日本当にお疲れ様です。毎日当たり前のことを行なうという、ご家庭での安定した生活は、子どもたちの生活の基盤となっています。

家庭から子供園に到着した子どもたちは、担任や学級の友達と日々新しいドラマを生み出しながら、園で生活しています。

何かができるようになるという「目に見える成果」は分かりやすく、「できる」という結果が注目されがちです。しかし、幼児期の教育は、子ども自身が選んだ遊びを楽しむ中で、子ども自身が学び、様々な力をつけていきます。その力は、成果として目に見えにくいものです。ですから、その遊びの中で、一人ひとりの子どもの育っていく過程を大切に見守ることが重要です。

子ども自身が遊びの中で、しっかりと力をつけていくためには、保育者は子どもたちが自ら関わりたくなる環境を用意し、子どもたち一人ひとりに応じた援助をしています。遊びの中では、楽しいことだけではなく思うようにできなかったり、失敗したりします。そのようなとき、思わずマイナスな言葉がでてしまいがちですが、「ここまで上手くいったね」「ここまでがんばったね」と子どもの姿を認めたり、「次はどうしてたらよいかな?」と子どもと一緒に考えたりすることで、「子ども自身の学び」につながっていくように声掛けをしています。

保護者の皆様には、降園時にお子さんの様子をお話したり、キッズビューで遊びの様子の写真を掲載したりしています。お伝えしている遊びの場面の中に、「取り組んでいる過程」をお伝えし、たくさんの「子ども自身の学び」があることをご理解いただけるようにしていきます。

ご家庭での安定した生活と子供園での遊び中心の生活を通して、一人ひとりの持ち味、その子らしさが輝いていってほしいです。取り組むことは時間も手間もかかって地味かもしれません、子どもたちの大切な毎日を保護者の方と一緒につくっていきたいと思います。

